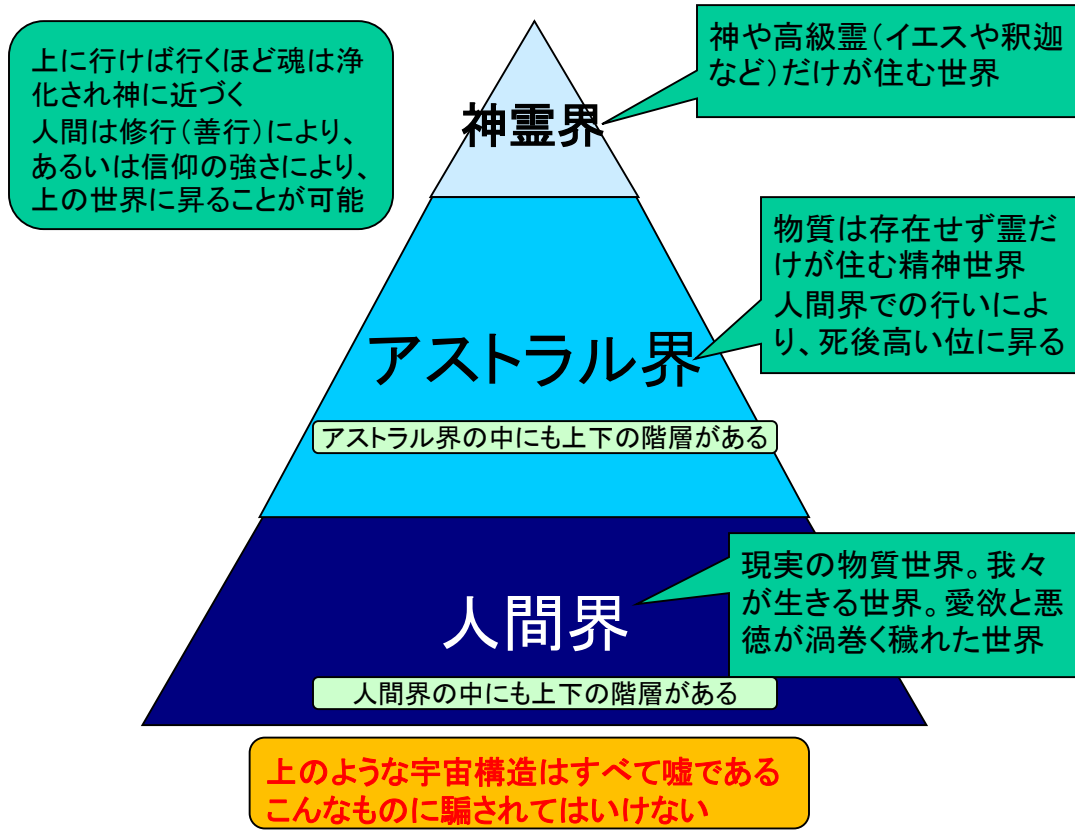


宗教の説く宇宙の構造



科学が説く宇宙の構造



宇宙には、時間と空間(別の言い方では“座標”)しかなく、中は空っぽ。
何か実体的な存在があるわけではない。
宇宙はただ自然法則に左右される(というよりもこの自然法則そのものが宇宙)だけで、その自然法則(時間空間)に意味などない。
当然善悪の基準もない

左の図は、宗教などでよく精神世界を説明する上で提示される世界の構造の一例である。むしろ現実の宇宙がこのような構造をしていないわけではない。実際に観測される宇宙は、単純化すれば右の図のようになる。宇宙には目的も意味も存在しない。ただ自然法則のみが存在し、その自然法則自体、(人間にとっては)意味をなさない。

精神世界では、精神の向上をもとに、左の図のように“階層”を設けたものを用いるが、精神世界は、あくまでも人間の都合により創造したもので、もちろん現実には存在しない。

似たような構造に仏教の「須弥山宇宙」がある。地獄から始まり、欲界、色界、無色界、そして天上界。上へ行くほど喜びが多く、下へ向かうほど苦しみが多い。仏教では、他にも「十界」や存在の構成要素として「五蘊」を説くが、これらはすべて、「空」であることを説くための方便であり、実在のものではない。それを絶対視することは明らかに誤りである。

そもそも精神(人間の意識)には、実体はない。正しい認識とは全てを「空」とみなす以外にないのである。

しかし思慮の浅い人は、このような宇宙像を「真実」だと思って信じ込んでしまう。